

大雪山の素顔

ゆっくりとした春を迎える旭岳

いよいよ桜も咲き、これから初夏のような陽気が多くなっていく時期ですね。ゴールデンウィークから10月頃までを観光業界では「夏季シーズン（グリーンシーズン）」といい、とりわけ北海道においては観光スポットなどが多くの観光客でにぎわう期間です。ちょうど1年前にはコロナが5類となり、観光施設や飲食店、行事、イベントなどでは自主的な感染予防をしながらの不安や期待が入り混じった1年でした。今年は数年ぶりにコロナ関連の規制もないなかシーズンに入ります。この冬もインバウンド客を含め、道内外のたくさんの観光客が東川町を訪れてくれました。とりわけ、大雪山旭岳エリアではスキーやボード、スノーシューなどのウィンターアクティビティを楽しむ人たちがとても多く感じました。弊社でもガイド付きツアーや、ウィンターウェアのレンタルなどを行っていますが、昨年の倍の予約が入っていました。冬からの観光客や人の流れがこのまま夏季シーズンにもつながっていくことを期待したいものですね。

さて、そんな大雪山もこれからの時期は、陽当たりの良い場所では山を覆っていた雪も次第にとけ、残雪によるゼブラ模様の山肌の姿を見せてくれるようになっていきます。そうなるといよいよ大雪山の山々にも少し遅い春の足音が近づいてきます。旭岳



大雪山の麓へひがしかわ的観光イズム

ロープウェイ付近の湿地帯では、きれいな黄色の花を咲かせるエゾノリュウキンカや水芭蕉（みずばしょう）が顔を出し始め、姿見駅付近では冬を耐えたハイマツが見られるようになります。とけた雪は、旭岳の噴火口の名残を残す地形にたまりながら、「姿見の池」や「夫婦池」などに姿を変え風光明媚（ふうこうめいび）な観光スポットとして私たちを楽しませてくれます。とけた雪は旭岳温泉街を流れる湧駒別川や天人峡エリアの「羽衣の滝」として落水し忠別川へ注ぎ、地下に浸み込んだ雪どけ水は伏流水となって「大雪山旭岳源水」や私たちの生活用水、田んぼへの農業用水にもなります。大雪山に降った雪は私たちの生活の源でもありますね。行楽シーズンを前に、水を張った田んぼと残雪の大雪山の風景を見渡し、大雪山の恩恵や自然の雄大さをあらためて感じたり、旭岳に向いてゆっくりとした春の訪れを楽しんだりすることができるのも、東川町で暮らす魅力の一つかもしれませんね。



◀姿見の水田

アクティビティ提供専門ショップ「HAC」 中田 浩康
(有)アグリテック代表

俳句

心待ち制服吊るし風光る
 鳴き交わし光となりて鳥帰る
 春光やかすかに揺れる風見鶏
 風光るよたよた歩くランドセル
 光る風硝子のペンは詩を紡ぐ
 風光る大雪山は揺るぎなく
 何時か読む推理小説春のちり
 田の泥より飛翔の翼や風光る
 風光る遅れて抜けた乳歯の隙間
 壁に貼り出す絵手紙の桜餅
 なんとなく地元に残り春の虹
 都合よく悲しみ忘れ春うらら
 卒業や三人姉妹の背くらべ
 たんぽぽや足場組まれて屋根普請
 猫柳河川の土手も光る風



一緒に俳句を楽しみませんか
 ～みんなが先生でみんなが生徒～
 月1回、自由で開かれた句会を開催し、俳句を
 心から楽しんでいきます。

120年の伝統を受け継ぐ
東川町ヌタツプ吟社
 高瀬 ☎ 82-15576

伊東花風 紺野桂 高瀬潤 三島智 若田郁 佐々木 本田咲 斎藤夕 横田則子 八田昌代 山内みゆ 保科なほ 鶴田真木 杉山りつ